

性教育重要性訴え

県内専門医「体に関心持って」



「自分の体に関心を持ってほしい」と呼び掛ける森沢孝行県産婦人科医会長
＝甲斐市内

がかり、性感染症などのリスクもあるため、産み、育てられる年齢になるまで、性交しないことが望ましいことを強調。その上で、「命の尊さや出産のすばらしさに加えて、避妊の意義や方法、緊急避妊、人工妊娠中絶など具体的な性教育を、中学生など早い段階からしていく必要性がある」と指摘する。

山梨県産婦人科医会長で竜王レディースクリニック院長の森沢孝行さんは、自分の体や性についての知識がないまま、望まない妊娠をしたり性感染症にかかったりする青少年の受診が目

ろ、実は妊娠していた。実際にこんな診療例があつたという。「妊娠する仕組みや月経のこと、自分の体のことを全く知らないのでは」と、危機感をあらわにする。

立つ医療現場の実態から、性教育の重要性を訴えている。

全国的に性交年齢が若年化し、望まない妊娠により、中絶したり、乳児を虐待死させてしまつたりするケースもある。森沢さんは、若

でも妊娠適齢期についても知らない患者が多い」と森沢さん。「何か起きてからでは遅い。普段から自分の体と向き合つてほしい」と呼び掛ける。

県内の女子中学生が「月経で下腹部が痛い」と訴え産婦人科医を受診したとこ

年妊娠は母体や胎児に負担

〈桑原久美子〉